

# 答辞

暖かな日差しが体育館に差し込む今日、私たちのために卒業式を挙げていただき、本当にありがとうございます。

今思えば、あつという間に過ぎ去った三年間でした。最後の一年はコロナ禍だったとはいえ、それすら気にならないような、笑顔溢れる、まさに最高の中学校生活でした。

私たちの中学校生活は、2018年の4月6日に始まりました。まだ慣れない制服に身を包み、新たな環境への不安とそれを上回る期待を胸に、私たちは第十中学校の門をくぐりました。それは、お世話になる先生や、三年間苦楽をともにすることになる仲間との出会いの日でもありました。

最初は小学校などで仲が良かった人とだけ話すことが多かったクラス。でも、校外学習でのカレー作りや、みんなで力を合わせた水泳大会など、行事を重ねるごとに仲良くなり、クラス全体の雰囲気もよくなりました。

一年生の中でもみんなの思い出に色濃く残っているのは、なんといってもスキー学舎でしょう。41期生初めての宿泊行事であるスキー学舎では、岐阜県のひるがの高原へ行きました。行き道のバスでは、バスレクや音楽で盛り上がりました。周りがだんだんと白銀の世界へと変わり、バスから一步踏み出すと、澄んだ空気が身体中を駆け巡りました。スキー実習では初心者と経験者でグループに分かれ、インストラクターさんに丁寧な教えてもらいながら、ぐんぐん上達することができました。クラスで過ごした宿舎では、レクリエーションも交えつつ、男女関係なく精一杯楽しめました。スキーの時間も、宿舎にいる時間も、仲間と共有した貴重な時間は、心の財産として鮮明に記憶されています。

二年生の大きな取り組みの一つである職業体験学習。その期間は三日間のみでしたが、多くのことが学べました。体験当初は事業所の方の指示を待つことも多かったのですが、次第に何をすれば良いかを考え、積極的に行動できるようになりました。また、事業所で働いている方の一生懸命な姿が凛々しく、こんな格好良い人になりたいと強く思うようになりました。自分の将来像や具体的な夢を見つけるきっかけとなりました。

秋。校外学習で行った京都巡り。自分たちで計画した行程表と地図を片手に、香里園駅からスタートしました。慣れない京都での班別行動は、計画通りにまわれるか不安でした。先生から課せられたミッションの一つ、「外国人にインタビューすること」では、声をかける緊張感と、英語で話すことの難しさを体感しました。清水寺や南禅寺などをまわって街並みを散策しながら、京都の文化や歴史にも触れました。途中で行程順を急遽変更した班もありましたが、そんなハプニングもうまく切り抜け、全員が無事にゴールの祇園四条駅に到着したときの喜びは、達成感に溢れ、三年生に向けての大きな自信にもつながりました。

体育大会を経て挑んだ全国リズムダンスふれあいコンクール。初めはあまり実感が湧きませんでした。東京へ行けることを夢見て夏休み前から必死に練習しました。しかし、全国への道は険しく、平坦ではありませんでした。なかなかダンスがそろわない、意見が合わない、先生から厳しい言葉をかけられることも多くありました。それでも、全国の舞台で最高のダンスができるように、また、出場出来なかった仲間の思いも背負って、「絶対に優勝するぞ」という思いで、心を一つに踊り続けました。結果は優勝こそ出来ませんでしたが、全力で堂々と楽しんで踊ることができました。

全員が同じ目標を持ち、たくさん泣いたり、笑ったりできたことは一生忘れられない思い出になりました。学年の絆がより一層深まった行事でした。

最高学年を迎えるにあたり、様々な行事で培った私たちの熱意、自信、そしてあの優しかった先輩たちと過ごす最後の一ヶ月。それら全てをコロナウイルスは奪ってしまいました。学校休業中には、友人と何気なく過ごす日常がどれほど大切だったかを考えさせられました。いつの間にか、なっていた最高学年。学校が再開しても、日常に戻るにはいくつもの壁がありました。一番影響を受けたのは、クラブ活動です。引退試合やコンクールがなくなり、悔しい思いもたくさんしました。コロナ禍の前であっても、日々の活動は楽しいだけではなく、辛いこともありました。しかし、その積み重ねがどれほど大事か、どれほど自分の財産になったか、今気が付かされることも多くあります。クラブ活動に励んだ三年間は、私にとってかけがえのない思い出です。

ずっと楽しみにしていた修学旅行も、今年はやれないのかと思っていました。しかし、「修学旅行に行きたい」というみんなの思いと、先生方が「みんなに思い出を残してあげたい」と動いてくれたおかげで、行けることになりました。ユニバーサルスタジオパンでは、班のメンバーと思いっきり遊び、ホテルではクイズ大会などで楽しみました。一日目の夜に、先生方にサプライズで用意してもらった花火には涙を流して喜ぶ生徒もいました。この学年で良かったと心から思える出来事でした。二日目には、クラスごとによし笛を作り、カヌーなどを体験しました。クラス対抗で行ったドラゴンボートのレースでは、全員が本気でこぎ、一生懸命に応援の声を出しました。あつという間に過ぎた二日間でしたが、みんなの思いと行動のおかげで最高の思い出になりました。出来るならもう一度みんなで行きたいです。

体育大会。中学校生活の集大成となる行進は、力強い足音が始まりを表す音楽のように聞こえました。華麗なバトンパスや風を切るような走りや、見ている全ての人を魅了したリレー。限界まで自分を出し切った数々の種目。そして、何よりも印象に残っている団体演技では、見てもらった人たちに感動を与えられるほどになりました。この学年は男女の仲が良く、誰にでも教えることができる、教えてもらえる環境を作ることができたからこそ、一人一人の個性あふれる最高のダンスを作ることができました。そしてこれまでで一番絆が深まった一日のように感じました。

学習発表会では ESD ソング、ドリームマップなどを自分たちの手で作り上げました。しかし、今年度の学習発表会は、楽しみにしていた合唱コンクールが出来ないことを知り、いつも

のようにクラスが一丸となって歌声を響かせることは叶いませんでした。それでも、コロナ禍の制限された環境で今の自分たちにできることを必死で考えました。試行錯誤の末、ミュージックビデオの作成を行うことが決まりました。限られた中でもアイデア次第で楽しめることを学ぶことが出来ました。そして、一番印象に残っているのは、展示物などの作品を創りあげるときに、クラスで団結したことです。学習発表会を通じてより仲が深まり、達成感も味わうことが出来ました。

在校生の皆さん、僕たちは君たちが目標としてくれる先輩だったでしょうか。委員会活動やクラブ活動で共に過ごしたのは、私たちの中でも大切な時間となっています。時には君たちに厳しく言ったこともありましたが、それでも僕たちのことを信じ、最後までついてきてくれてありがとう。試合のときには、「先輩、頑張ってください。」と、一生懸命応援してくれてありがとう。僕たちが引退してからも、試合に勝てた嬉しさを報告しに来てくれてありがとう。君たちから届く声や頑張り、いつも心がほっこりし、笑顔になりました。だから、たくさんのありがとうを言いたいです。本当にありがとう。僕たちは君たちと過ごした思い出を絶対に忘れません。これからも、悩んだり、困ったりすることがあると思います。そんなときはぜひ、周りに友達や家族、先生方がいることを忘れないでください。必ず力になってくれます。そして僕たちも、いつでも話を聞くので遠慮せずに頼ってきてください。卒業するまでの時間は、あっという間です。時間を大切に、しっかりと勉強し、クラブ活動にも真剣に打ち込み、学校行事ではこれからも全員で盛り上げて楽しんでほしいです。そして、友達ともいっぱい遊んでください。一日一日を大切に、たくさんのいい思い出を作ってください。僕たちは卒業してからも、君たちのことを応援しています。今まで本当にありがとう。

今日、私たちはこの第十中学校を巣立っていきます。この三年間、幾多の苦難を乗り越えてきました。一人では歩いて来られなかった道です。共に歩み、支え、励ましてくれた人なくして今日はありません。いつも優しく面白い授業をしてくれた先生方。入学式の際の不安も明るい先生方のおかげで吹きとばすことができました。そして悩んだときには親身になって相談を聞いてくれました。先生方の生徒として三年間を過ごせたことをとても誇りに思います。勉強だけでなく、あきらめないこと、全力を尽くすこと、協力すること。十中で学んだことや思い出は、私たちの宝物です。先生方には大切なことをたくさん教えていただきました。本当にありがとうございました。そして、三年間共に過ごした仲間たち。ケンカしたこともありました。嫌なことがあったとき、いつもそばで励ましてくれたこと。とてもうれしかったです。それから、お父さん、お母さん。どんなときも寄り添い、支えてもらいました。私たちは期待に込められないことも多かったと思います。ひどいことを言ってしまったこともあったでしょう。そんなときも正面から私たちを受け止めてくれました。心から感謝しています。いつもはなかなか素直に言えませんが、十五年の間、深い愛情を本当にありがとうございました。これからは、それぞれがそれぞれの道を歩んでいきます。楽しいことや辛いこと、たくさんの出来事が私たちを待っていると思います。でも、この十中で学んだことを生かしてその困難を乗り越えていこうと思います。三年間本当にありがとうございました。